P-023 「歯の治療学」におけるシナリオベース実習と体験先導型臨床基礎教育の効果

○諸冨　孝彦[1]、角舘　直樹[2]、西藤　法子[1]、吉居　慎二[1]、平田－土屋　志津[1]、鷲尾　絢子[1]、北村　知昭[1]、西原　達次[2,3]

[1]九州歯科大学　口腔保存治療学分野、[2]九州歯科大学　歯科医学教育センター、[3]九州歯科大学　感染分子生物学分野

Educational effects of the scenario-based pre-clinical training and experience-led learning in tooth therapeutics

○ Takahiko MOROTOMI[1]、Naoki KAKUDATE[2]、Noriko SAITO[1]、Shinji YOSHII[1]、Shizu HIRATA-TSUCHIYA[1]、Ayako WASHIO[1]、Chiaki KITAMURA[1]、Tatsuji NISHIHARA[2,3]

[1]Division Endodontics and Restorative Dentistry, Kyushu Dental University、[2]Center for Advanced Dental Education, Kyushu Dental University、[3]Division of Infections and Molecular Biology, Kyushu Dental University

【目的】本学では歯科医学・医療の統合教育を目的として、1人の患者の初診から終診までのシナリオに沿ったシナリオベース実習を臨床基礎実習に導入し、株式会社ニッシンと共に開発した統合模型 iDSim を用いて各専門分野教員が協調して実習を進めている。シナリオベース実習を導入した科目の中でも、我々が担当する「歯の治療学」（保存修復治療学、歯内治療学、歯冠補綴学概論）では、学生は 1) 実習毎の課題に関して予習し，2) 小テスト後に実習を行い、3) 実習後に内容に即した講義を受講し、そして 4) 再度定着実習を行うという、講義の前に実習を受ける体験先導型臨床基礎教育を実施している。今回、平成 26 年度「歯の治療学」の講義・実習終了時に実施したアンケート調査をもとに、シナリオベース実習と体験先導型教育法の有効性を検証した。【対象と方法】平成 26 年度の第 3 学年全 94 名を対象として「歯の治療学」講義・実習最終回にアンケート調査を行った。アンケートでは 1) 講義と実習のどちらが先がよいか、2) 実習前に行う予習と自宅学習について、3) シナリオベース実習について、4) 実習書について、5) 教育カリキュラムについて調査した。【結果および考察】79% の学生が「実習が先が良い」と回答し、うち 84% が「既に実習で体験した内容を講義で確認するため理解しやすい」と答えた。一方、「講義が先が良い」と答えた 21% のうち 95% が「知識を身につけた上で実習を受けたかった」と回答した。36% が「予習は苦痛だった」と回答したが、「積極的に取り組めた」との回答が 52%、「内容が記憶に残りやすい」は 55% であった。一方、「自己学習の習慣が身についた」という回答は 44% であった。シナリオベース実習については 84% が「シナリオがあった方がよい」と回答した。【結論】シナリオベース実習と体験先導型教育は臨床基礎教育法として有効であることが示唆された。